未来医療研究人材養成拠点形成事業
選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント
[テーマＢ：リサーチ・マインドを持った総合診療医の養成]

整理番号	Ｂ－３

申請担当大学名 （連携大学名）	千葉大学
事業名	超高齢社会に対応する総合診療医養成事業 ～地域と大学でロールモデルを継続的に育てる仕組みを作る～
事業責任者	総合診療部教授　生坂　政臣

事業の概要

超高齢化社会での様々な問題を解決できる総合診療医を、大学の医・薬・看が地域と一体となって養成する事業である。卒前教育においては地域医療を課題としたテュートリアル、診療所での参加型臨床実習や多職種連携教育などの導入により学びの場を地域へシフトする。卒後研修においては、指導医を常駐させた診療所群を設置し、他職種連携のもとで在宅看取りを含めた地域医療を実践しながら、これらの施設と情報通信技術で繋いだ本院総合診療部のカンファレンスを地域で展開・共有し、包括的な診断能力の獲得を目指す。さらに寄附講座や大学院との連携により、学位を有し地域包括ケアを科学的に推進する指導医を育成しつつ、育った指導医がロールモデルとなり次世代の総合診療医を輩出する“育成サイクル”の仕組みを作る。また総合診療専門医取得コースや再研修コースを設置し、キャリアパスを明示するとともに、他領域から総合診療への移行を支援する。

推進委員会からの主なコメント　　○：優れた点等、●：改善を要する点等

○大学と地域の強みがうまく統合されている。
○地域医療での教育の問題点をよく把握しており、専従スタッフを派遣する案は優れている。
○総合診療医輩出の仕組づくりを課題分析から導き出しているところは優れている。
○教育プログラムも吟味されており、実現可能性が高い。
○大学内の学部の連携による多職種連携教育プログラムは評価できる。
○総合診療医としての診断技術の向上も期待できる。
○すでにある総合診療部の機能を本事業の理念により、リサーチ・マインド等を具体的に強化することを試みようとしている点で優れている。
●事業終了後の持続可能性への配慮をお願いしたい。
●在宅医療専従コースにおける多職種連携教育では、医療職以外の職種間連携に関するプログラムを充実することが望ましい。
●総合診療的リサーチ・マインドは医学生の時期から育成されることが望ましい。